

わアー、やっぱり三池

エネルギーが爆発した 文化祭



宮浦指導部の「炭壁に刻む」から。はげしい踊りが闘いの意欲を盛りあげた。

「わアー、やっぱり三池労組は違えばい」——常々何ごともないようにしていながら、ことあれば火山の噴火のように燃えあがる労働者のエネルギーを、心ゆくまで味あわせたのが、七日市民会館で開催された「文化祭」だった。たとえ文化祭をやろうときめこぞしたが、いったいたれがこれほどあふれるばかりの創造力の開花を予想できたろう。

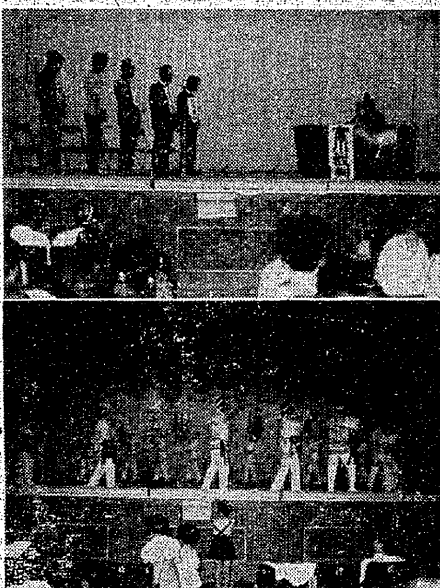
「こらア、来年もやらなんばい」——みんなの胸に、すでにその日の決意は固まった。

た。果して来年どんな舞台の花が咲くか。とまれこの日演じられた種目を紹介しておく。

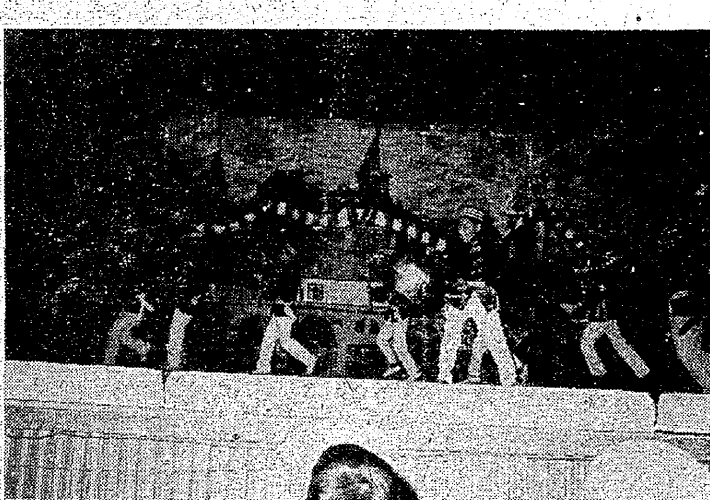
四山 構成劇「長崎の鐘」
宮浦 “炭壁に刻む歌”
三川 歌と踊りによる——「ある日曜日」
港務 劇「歴史は裁く」
本所 日本民謡演奏
本部 コミック「みいけブターズ」



小石スエノさんが、災害で死んだ夫をしのんでつくった「おしよる舟」の発表。



働く者の日、民主法廷は、搾取者三井に無期重労働の刑を課す。港務の歴史は裁く。



長崎の歴史と、勇壯な蛇踊りに託して、四山指導部の演じものは、平和への願いをうたい上げた。

炭婦協 新方針確立

これ以上の閉山許さぬ

去月二十六・七日炭労会館で、炭婦協の第十九回評議員大会が開かれ、新しい七〇年度の闘いの方針を確立した。

大会には十四人の評議員をふくめ、二十五人が参加したが、確立された闘争方針の骨子は次の通りである。

- 一、組織を強め、活動を活発にし、子どもを育て、民主教育を守る。
- 二、閉山・合理化に反対し、お父さんの生命を守るために闘っていく。
- 三、物価値上げに反対し、有害食品の追放、食糧制を守るために闘う。
- 四、社会保険の充実と健康を守る。
- 五、子どものあわせと、民主教育を守る。

六、戦争に反対し、平和を守る。

こんどの大会に参加した八保三池主婦会代表は、感想を次のように語った。

「結成当時十万人の組織人員をかかえていた炭婦協も、現在では三万人に減りました。それに、評議員大会に集まる人も減りました。しかしそれで北海道・九州で炭婦協の活動は盛んになっていくと思います。いずれのところでも現在一番の悩みは何といっても、自から働いている会費を炭婦協活動にどう結集していくかにあります。

情勢はますますきびしく、困難な中でもこれ以上の閉山は絶対認めなくてはならないとの決意を新たにしましたことでした」

なお選出された新役員は次の通りである。(以下敬称略)

会長 堀井よしえ(北海道・新夕張)、書記長 湯上ゆき(九州・高島)、幹事 五十嵐光枝(北海道・幌内)、総務 倉本(同・美瑛)、久保時江(九州・三池)、会計監査 戸崎(北海道・上砂川)、島 文枝(九州・三池)

各地にCOO守る会誕生

活動に変化が

清田さんからの便り

「神戸COO守る会」の青年労働者四十名は、あらゆる労働者の集まりや同僚たちに働きかけて組織を伸ばそうと努力しています。なかなか思うようにいきません。ただ、このようにあらゆるところに目を突っ込んできましたので、COO守る会の存在がだんだん心ある労働者の中に知られていくと思います。

「やがてくる日に」通ずる何かがあるのです。

僕らの友の中にもゆきたい人がいますから、今年も夏季児童対策が行われるのでしたら、参加させていただきたいと思っています。

夏季児童対策に今年も参加

昨年の夏季児童対策のころは、お世話になりました。三池での二週間は、北国青の僕に楽ではありませんでした。対策の終わりが三池にもっと残りたい気持ち半分体がバテてしまつて早く帰りたい気持ち半分という状態でした。でも夏がきたらまた三池にゆきたくなってきたので、三池というところは不思議なところですね。

この便りは武蔵野美術大学学生の下川憲一さん(東京都立川市砂川町八六、上次田様方)から、宮浦指導部の安達指導部長に寄せられたものです。

保守的な地にも

螢の光りが

蓮尾さんからの便り

ご無沙汰致しました。お変わりありませんか。私共も元気です。久美(お子さん?)は毎日の宿題と授業がすんで、その後一時間ほど「頑張り勉強」といって、また学習があるそうで、帰るのが二時半近くなります。

大英(同じくお子さん?)は久美を「クミ、クミ」とよんで、何時も遊びにくのは一緒です。みんな「ケンちゃん、トコちゃんみたい」といわれています。

お父さんは守る会結成以来、勤務以外の日はそのことをし

く、家に居る時はありません。先日十三日、広畑に灰原さん(元三池労組書記長)が見えられました。今日、大津田から玉々く離れた所にある、ひらけ行く工業地帯に、十四人くらいでCOO守る会が結成されますので、出かけています。高砂市という所です。

この保守的な播州の地にも、螢の光程度ですが、三池の火が灯りはじめたことは、うれしいお知らせの一つです。この火が「三池の闘い」のように大きくなっていくよう努力せねばなりません。

職場に「一人「まなぶ」の読者を作ることができました。りっぱな社員同員になるのが楽しみです。昨日灰原さんのお話を聞き、とても感激していた様子でした。

私も運動に力をつけていきたいと思いますが、デビたち二人連れで話になりませんし、残念でなりません。

夏休みには久美も楽しみにしていますので、お邪魔いたしたく思っております。皆様によろしくお伝えします。

この便りはいま「岡山県姫路市城東町三百十番地、事業団宿舎四一二十号」にお住まいの蓮尾泉さんから、織田フミエさん(日井社宅居住)へ寄せられた便りです。

なお、同封されていたようにありますと、この十四日に「加古川・高砂地区COO中毒患者守る会」が誕生しました。思わず「がんばれ」と叫ばずにはいられません。

以上のほか、婦人民主新聞社の大阪支社の中にも、貴重な活動家松本貞枝さんの手によって「守る会」の組織が生まれ、拡大しています。くわしくは、次号で報告する予定です。